



\*今月号は私が担当しました。



営農経済渉外係長  
田中 裕子  
〔南部地区担当〕

## 土壌診断のおすすめ

J A ふかやでは、「土壌診断室」にて、組合員のみなさんを対象に、土壌診断を行っています。昨年度までは、隔月で実施していましたが、みなさんの要望にお応えして、本年度より毎月土壌診断の受付を行っています。

前作で生育不良だったほ場や長い間休耕していたほ場、新たに借りたほ場などの土壌診断することで、ほ場の状態を把握し、栽培する作物に適した施肥を行います。この機会にぜひ、ほ場の健康診断を行ってみませんか？

## 土壌分析項目

J A ふかや土壌診断室ではpH、EC、石灰、苦土、加里、リン酸の6項目を分析しています。

### 【pH】

pHは、土壌中の水素イオン濃度を表しています。pH 7.0は中性で、数字が小さくなると酸性、大きくなるとアルカリ性です。多くの作物は、pH 6.0～6.5の弱酸性を好みますが、好適pHは、作物の種類によって異なります。

### 【EC】

ECは、土壌と純水を混ぜた液中の電気の通りやすさを示しています。塩類を含まない水は電気を通しにくく、EC値は低くなります。塩類を含む水は電気を通しやすいため、EC値は高くなります。つまり、塩類が多いということになります。

### 【塩基類】

石灰（カルシウム）、苦土（マグネシウム）、加里（カリウム）の3種類の塩基を分析しています。

それぞれの特徴は、次のとおりです。

#### ・カルシウム

植物の細胞内の色々な膜構造や、核形成の構成材料の役割をしているので、欠乏すると頂芽や根の生育が抑制されます。また、土壌pH調整にも重要です。

#### ・マグネシウム

葉緑素の構成成分のため、欠乏すると葉脈間の緑色が退色し黄化します。

#### ・カリウム

光合成能力を促進し、デンプン生産などに関与しています。欠乏すると光合成能力が低下します。また、過剰になるとマグネシウム欠乏になります。

塩基類は、不足すると作物の生育に様々な影響を与えます。ただし、近年は過剰傾向です。

#### ・塩基類の拮抗作用

カルシウムの吸収は、マグネシウム・カリウムが多いと抑制され、マグネシウムの吸収は、カリウム

が多いと抑制されます。また、カリウムの吸収は、カルシウム・マグネシウムが多いと抑制されます。このように、塩基は他の塩基とのバランスが重要になります。

### 【リン酸】

リン酸は、肥料の三要素の一つで、作物の生育が盛んな若い組織に多く含まれています。新しい細胞をつくるために必要で、根の発達にも影響しています。作物の生育には、窒素に次いで影響を与えます。

土壌中のリン酸には、利用しやすいリン酸と、利用しにくいリン酸がありますが、分析では、トルーグ法で抽出した有効態リン酸を測定しています。

## 土壌診断受付

- 申込期間 毎月1日～10日
  - 申込先 各営農経済センター
  - 料金 1検体330円（税込）
  - 結果 毎月21日以降に発行
- ※毎月50検体を上限とします。  
※よく乾燥し、ふるいにかけて検体《土》をお持ちください。

